

須恵器生産遺跡

菅江遺跡

菅江集落の南側の横山丘陵から突き出た丘陵の斜面に立地していました。以前から須恵器（灰色をした固い土器）の破片が拾われていたことから窯跡として知られており、集落名も須恵器を焼いたことによります。

発掘調査では、奈良時代前半から中頃の須恵器を焼いた窯跡1基と、灰や焼き損じを捨てた灰原が2カ所みつかりました。窯跡は地山を掘り下げた半地下式の登り窯です。焚き口と煙道部（煙が出るところ）が削られてしまっているので全長はわかりませんが、焚き口と思われる部分から、煙道部分までの現存長は約4.4m、幅は約1.5mありました。窯の床面と側壁の表面は、熱によって溶けてガラス状になっていました。また、焚き口と思われる部分の床面からは、何回も補修された跡が確認されました。2カ所の灰原からは、壺身、壺蓋、甕、長頸壺、短頸壺、平瓶、環状提瓶、鉢、皿などが大量に見つかっています。

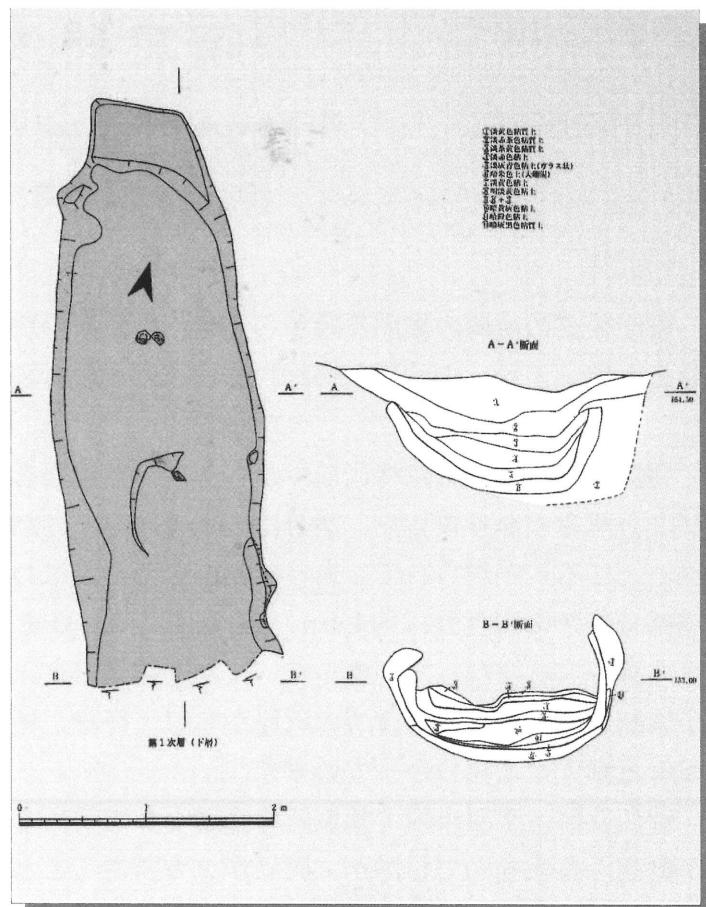
菅江遺跡は米原市内で須恵器の窯跡として初めて調査された遺跡です。調査では、窯跡は1基しか確認されませんでしたが、灰原が2カ所あることから、さらにもう1基の窯跡があったと考えられます。出土品には大型のものはほとんどなく、中型製品が大半でしたが、バラエティーに富んだ、さまざまな器種の須恵器が出土しています。



出土した須恵器



窯跡全景



窯跡実測図

環状提瓶

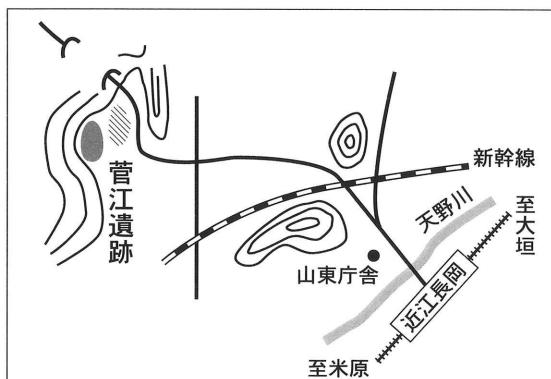
水などをそそぐ環状の土器で、^{ていへい}提瓶の変形とされています。出土したものは、注ぎ口と片面が欠落していますが、製作工程を知るうえでも貴重です。少し形は違いますが、6世紀頃のいわゆるドーナツ型の環状提瓶は、広島県や富山県など全国でも数例しか発見されていない資料です。

横山丘陵の須恵器窯跡

横山丘陵には、菅江遺跡のほかにも須恵器片が散布する場所が知られており、ほかにも窯跡があると想定されています。横山丘陵とその周辺には、奈良時代を中心とした須恵器の大生産地があったのかもしれません。



環状提瓶



菅江遺跡

■ 所在地 滋賀県米原市菅江

■ アクセス JR東海道線近江長岡駅下車。バス利用。
※現況は山林です。

米原市教育委員会

滋賀県米原市長岡1050-1 TEL.0749-55-8020

平成24年度 市内遺跡保存活用事業